

オーディオ実験室収載

バッハ盤を聴く(2)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(2)—

1. 始めに

前報(1)に引き続き、バッハのアナログ盤を聴き直していきます。

2. バッハのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、今回も 1970 年代後半以降の新興レーベルを ThorensTD124 で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わっています。

SEON MLT 5001 (サンプル盤)

J.S.バッハ シンフォニア 第 8 番 BWV794

第 9 番 BWV795

グスタフ・レオンハルト (チェンバロ)

J.S.バッハ プレリユードとフーガ ホ短調 BWV533

グスタフ・レオンハルト (チェンバロ)

J.S.バッハ 音楽の捧げもの BWV1075 トリオソナタ

クイケンアンサンブル

J.S.バッハ リュート組曲ト短調 BWV995

オイゲン・M・ドンボワ (バロックリュート)

SEON MLG 1007

J.S.バッハ リュート組曲ト短調 BWV995

オイゲン・M・ドンボワ (バロックリュート)

SEON MLG 1007

J.S.バッハ 音楽の捧げもの BWV1075

クイケンアンサンブル

グスタフ・レオンハルト指揮・チェンバロ

SEON MLG 1014

J.S.バッハ カンタータ《私は喜んで十字架を担おう》 BWV56

J.S.バッハ カンタータ《私は満ち足りている》 BWV82

フランス・ブリュッヘン指揮古楽アンサンブル

3. バッハのアナログ盤の試聴結果

SEON レーベルのイコライザー特性は ZANDEN のリストにもありませんので、一から聴いていきます。

まずは、MLT 5001 (サンプル盤) 聴き始めますが、サンプル盤ですので、その他の盤の指標になります。シンフォニア第 8 番から RIAA、N、第 4 時定数 High で聴き始めましたが、焦点が定まりませんので、位相を R にすると、チェンバロの音像がしっかり立ってきます。イコライザーカーブはあれこれ替えてみますと、TELDEC がしっくりくるようです。

SEON レーベルの由来をネットで検索すると下記の記載がありました。

「「セオン」は、テレフンケンの「ダス・アルテ・ヴェルク」シリーズのレコード・プロデューサーであったヴォルフ・エリクソンが 1969 年に設立し、グスタフ・レオンハルト、フランス・ブリュッヘン、アンナー・ビルスマ、クイケン兄弟といったベルギー、オランダのオリジナル楽器奏者を中心とするアーティストによる優れた演奏の録音を制作したレーベルです。」

そこで ZANDEN のリストでテレフンケンを調べますと、TELDEC、R、第 4 時定数 Mid とありましたので、第 4 時定数を Mid にすると、これが良さそうです。バッハ以外のクーランやモーツアルトもこの設定で良さそうです。

リュート組曲は、サンプル盤に倣って、TELDEC、R、第 4 時定数 Mid で聴き始めましたが、問題なく、リュートのピックも胴鳴りもリアルです。

音楽の捧げものは、サンプル盤に倣って、TELDEC、R、第 4 時定数 Mid で聴き始めましたが、フルート・トラヴェルソ、ヴァイオリン、チェンバロ、ヴィオ・ラ・ダガンバなどの音像がしっかり立って透明度も高く、定位も安定しています。

カンタータの 2 曲は、サンプル盤に倣って、TELDEC、R、第 4 時定数 Mid で聴き始めましたが、ソリストの歌唱はクリアーで、教会の残響も豊かに捉えられ、古楽アンサンブルも明晰で定位もしっかりしています。

4. まとめ

ThorensTD124 の再構成(1)とアンチスタティックの効果(2)の結果をトレースでき、SEON レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上